

# 暖房器具による火災に気をつけましょう！

寒い季節を迎え、ご家庭や職場で暖房器具を使用される機会が多くなってきました。

暖房器具に関連する火災の、主な出火原因は、電気ストーブ、石油ストーブ、ハロゲンヒーター、ガスストーブの順に多くなっています。

そのほとんどが、誤った取扱いや管理上の不注意によるものです。

例1：電気ストーブの上に干していた洗濯物等の可燃物が落下した。

例2：電気ストーブのスイッチを入れたまま就寝し、寝返り等の際に布団が接触した。

例3：石油ストーブの使用中に給油した。

暖房器具からの火災を防ぐためには、まず、これらの火災の実態を知るとともに、取扱説明書等をよく読み、器具の正しい取扱いや管理をすることが大切です。



## 【暖房器具からの火災を防ぐポイント】

### 衣類などの可燃物の近くで使用しない

ストーブの上で洗濯物を乾燥すると、落下した時、火災となるおそれがあるのでやめましょう。カーテンや衣類・布団・ふすまなどのそばでは使用しないようにしましょう。



### エアゾール缶などを暖房器具の上やそばに置かない

エアゾール缶などをストーブやファンヒーターなどの暖房器具の上や近くに放置していると、放射熱で過熱され、缶の内圧が上昇して破裂し、漏れたガスに引火するおそれがあるので絶対にやめましょう。

### 寝るときや外出するときには必ず火を消す

布団などが接触して火災となるおそれがあるので、寝るときや外出するときは暖房器具のスイッチを切る習慣を身につけましょう。

電気ストーブ・石油ファンヒーターは、長期間使用しないときには、誤ってスイッチが入ることを防ぐためにプラグを抜きましょう。

また、収納するときは、電池を抜きましょう。

## 石油ストーブ等のカートリッジタンクの口金は確実に締まったことを確認してからセットする

給油時は必ず消火し、火が消えたことを確かめてから給油しましょう。

カートリッジタンクへの給油は、石油ストーブ等とは別の場所・火気のない場所で行いましょう。

給油後は、火気のないところで一度カートリッジタンクをひっくり返し、カートリッジタンクから灯油が漏れないことを確認してからセットしましょう。

また、漏れてしまった油は、よく拭き取りましょう。



①消火

②給油

③口金を下にして確認

④セット